

著書, 学術論文等	単著 / 共著	発行・発表年月	発行所, 発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概要
著書				
1. エリートと教育	単著	1967年10月	福村出版	わが国の近代化とエリート形成の問題を学校教育主として学歴を分析視覚として解明した。
2. 大学と人材養成	単著	1970年6月	中央公論社	わが国の近代化とエリート形成の問題を近代化の3段階を設定して先行人材・離陸人材・スタビライザーという3つのエリート類型を分析概念として解明した。
3. Education and Japanese Modernization	共著	1970年9月	外務省	わが国の近代化と教育に関して、「教育・社会構造」という視点から解明した。
4. 家族・福祉・教育	共著	1970年9月	有斐閣	テキストの一部として、教育と社会移動、教育計画について基礎概念を中心に解明した。
5. 教育社会学	共著	1974年5月	東大出版	教育社会学の研究領域を教育構造・教育課程・教育変動の三視点から解明した。
6. 近代教育百年史	共著	1974年8月	国立教育研究所	明治百年の記念事業として企画されたものであり、そのうちわが国の大学の発展を教育社会学的観点から解明した。
7. 現代社会学	共著	1975年11月	日本放送出版協会	テキストのなかで、学歴社会と教育計画の部分を基礎概念を用いて解明した。
8. 能力・適正・選抜と教育	共著	1975年7月	第一法規出版	編者の一人として参加するとともに、教育と選抜との関係について、構造・機能主義の観点から論述し、それに教育学的観点からの改革案を提示した。
9. 現代のエスプリ95号 (エリート)	共著	1975年5月	至文堂	編者として参加し、エリートの概念についてその諸定義をレビューしエリート概念を提示した。
10. 現代技術社会と教育	共著	1975年11月	開隆堂	編者の一人として参加し、情報化社会の形成・構造・機能とそこでの人間のライフ・スタイルを論述した。
11. 学歴効用論	共著	1977年2月	有斐閣	編者の一人として参加するとともに、一章を分担しわが国における学歴の機能を後発効果の観点から分析した。
12. 学歴と生きがい	単著	1977年5月	日本経済新聞社	わが国の学歴社会の形成とその構造・機能を日本のライフ・コースの観点から解明した。
13. エリート形成と教育	単著	1978年	福村出版(改訂版)	1942年版の増補改訂版で、「有名大学」という章を追加したものである。
14. 変革期の人間形成	共著	1978年4月	アカデミア出版	編者の一人として参加するとともに、一章を分担し、文学作品を用いて、現代青年のアイデンティティ形成の問題を解明した。
15. デュルケム道徳教育論	共著	1978年12月	有斐閣	編者の一人として参加し、デュルケムの道徳教育論の解説を担当した。
16. ヨーロッパ, アメリカ, 日本の	共著	1978年12月	有斐閣	編者の一人として参加し、日

教育風土				本の学歴社会のタイプ化の章を分担した。
17. 発達と環境	共著	1979年 8月	学習研究社	編者として参加し、職業教育とパーソナリティー形成の章を分担した。
18. 日本の学歴社会は変わる	共著	1981年	小学館	編者として参加し、日本の学歴社会の形成とその変動に関する章を分担した。
19. 近代化と教育	単著	1982年	第一法規	日本の近代化と教育の問題を、パーソニアン・モデルを用いて分析・記述した。
20. 学歴社会の読み方	単著	1983年	筑摩書房	日本の学歴社会の特異な構造を把握し、解明した。
21. 学校ざらい勉強ざらい	共著	1983年	福村出版	編者として参加し、日本の学校アノミーの病理に関する章を分担した。
22. 生涯学習論	単著	1984年	放送大学教育振興会	教育社会学の観点から、教育の生涯教育の問題を論じた。
23. 教育革新と教育計画	単著	1984年	第一法規	編者として参加し、教育改革の計画論的モデルを示した章を分担した。
24. 学校の社会学	共著	1986年	学文社	編者として参加し、日本の学校の変遷 - 特に近代学校から現代学校への転換を論じた章を分担した。
25. リーディングス日本の社会学	共著	1986年	東大出版	編者として参加し、教育社会学の代表的論文を選び、それらの解説を担当した。
26. 人間の発達と生涯学習	共著	1988年	亜紀書房	編者として参加し、生涯発達の観点から、今日の生涯学習の問題点を論じた。
27. 改訂版生涯教育論	単著	1988年	放送大学教育振興会	昭和59年版の生涯教育論の増補改訂版である。
28. 日本の学歴エリート	単著	1992年	玉川大学出版	日本の学歴エリートについて、特にその形成過程を中心に、教育社会学の観点から分析した。
29. 生涯発達と生涯学習 - 豊かな生涯学習社会をめざして -	単著	1993年	放送大学教育振興会	生涯学習を生涯発達の観点からとらえなおし、その課題を明確にした。
30. 教科外指導の課題	共著	1995年	学文社	教育社会学の観点から教科外指導の理論を考察した。
31. 生涯発達と生涯学習	共著	1997年	放送大学教育振興会	生涯発達の観点から、今日の生涯学習の課題を明確にした。
32. 創造的才能教育論	共著	1997年	玉川大学出版	少子化時代における才能教育のあり方について論じたもの。
33. 現代日本の教育的課題	共著	1999年	放送大学教育振興会	現代の教育荒廃の実態を分析し、それを克服する為の15の課題をあげ、解決の糸口を探った。
34. 21世紀のエリート像	共著	2004年	学文社	21世紀の女性エリート形成への道、特に教育の役割について戦後教育のタブーから解放された新しいエリート教育を論じたもの。
学術論文				
1. 明治前期高等教育の諸形態とそのエリート形成効果に関する研究	単著	1963年5月	日本育英会研究紀要 第1巻	明治14年までの高等教育の成立期の分析とそのエリート形成効果についての実証的研究。
2. 近代日本におけるエリート構成の変遷	単著	1963年9月	日本教育社会学会編「教育社会学研究」第15巻	明治以降、現代までのエリート形成に果たした高等教育の役割に関する実証的研究。

3 .明治期における高等教育機関のエリート形成機能に関する研究	単著	1964年 4月	日本教育学会編「教育学研究」第30巻2号	明治期の高等教育の形態とその エリート形成機能に関する実証的研究。
4 .大正初期から明治初期における高等教育機関のエリート形成機能に関する研究	単著	1964年 6月	日本育英会研究紀要第2巻	大正後期の高等教育の再編を境都として高等教育のエリート形成機能がどのように変化していったかを実証的に研究したものである。
5 .社会体制と教育	単著	1964年10月	日本教育社会学会編「教育社会学研究」第19巻	社会体制と教育に関する教育社会学の研究についてのクリティーク。
6 .後期中等普通教育における学校差の実証的研究	単著	1965年12月	日本教育学会編「教育学研究」第32巻4号	新制高等学校普通課程にみられる学校差の形態と機能に関する研究。
7 .社会体制と教育	単著	1967年 4月	新堀通也・木原健太郎編「現代教育社会学」明治図書	社会体制と教育に関する従来の構造モデル批判と新たな構造モデル試案の提示。
8 .現代社会の求める創造性	単著	1967年 9月	恩田彰編「創造性の基礎理論」 明治図書	創造性の社会学に関する理論的フレームワークの提示。
9 .社会階級と教育	単著	1968年 7月	姫岡勤・二関隆美編「教育社会学」有斐閣	社会階級と教育との相互規定に関する分析枠の提示。
10 .勤労青少年の余暇行動と消費態度及び勤労倫理に関する研究	共著	1968年10月	総理府青少年対策本部	標記テーマに関する実態調査報告書。
11 .生徒指導の社会基底	共著	1969年1月	東京学芸大学研究紀要第20集（教育部門）	生徒指導において、その社会基底との関連の重要性を指摘した。（共著者：五十嵐清止他）
12 .メリットクラシーと教育	単著	1969年8月	大河内一男・清水義弘編「教育改革の課題」潮出版	メリットクラシーの進展に伴い、教育がどのような役割を果たし、どのようなインパクトを受けるかを論じた。
13 .英才・業績・社会	単著	1969年 9月	清水義弘・向坊隆編「英才教育」第一法規出版	英才の問題を情報科学的アプローチによって検討し、その社会的条件について論及した。
14 .わが国における学校経営における特質とその変遷	単著	1971年 3月	西本洋一編「教育経営と教育工学」大日本図書	わが国の学校経営の構造的特質を学校経営観の変遷からとらえ特に「自然秩序」との関係で論じた。
15 .学歴革新	単著	1971年 4月	「経営問題特集」中央公論	「学歴革新」という概念を「労働力と学歴」との新結合という視点でとらえ、わが国の産業・職業構造にみられる「高学歴化」を分析した。
16 .文学に現れた大正期の道德教育	単著	1972年 3月	伊勢仙太郎著「わが国の義務教育における教育方法の歴史的研究」13編4章	井上靖の文学作品を通じて、当時の家庭、地域、学校における道德教育の類型を分析した。
17 .能力の社会学	単著	1972年 3月	日本教育学会編	教育社会学の既存研究の資料にマクロ・ミドル・ミクロの3つの次元からなる“能力の社会学”を構想した。
18 .国立大学の地域的機能に関する実証的研究	共著	1972年 3月	東京大学教育学部紀要第12巻	八つの国立大学を選び、その卒業生の追跡・調査を通じて、地方国立大学の人材養成・配分効果を分析した。
19 .情報化社会の教師像	単著	1972年 9月	岸田純之助・木原健太郎編「情報化時代の教育」明治図書	G・ギュルヴィッチの包括社会構造論の立場に立って、「情報化社会」の構造的特性を分析した。
20 .未来型の学校	単著	1972年11月	日本教育社会学会編「教育社会学研究」第27巻	W・トマスの“Definition of Situation”の構造的特性を分析しそれが学校に関する未来イメージに与えるインパクトについて記述した。

21. 社会体制と教育	単著	1973年 9月	日本教育社会学会編「教育社会学の基本問題」東洋館出版	社会体制と教育に関する従来型の構造モデル批判と新たな構造モデル試案の提示。
22. 教師の専門的地位と役割の実証的研究	共著	1973年 9月	東京学芸大学研究紀要第24巻	東京学芸大学卒業生の追跡調査によって教員養成系大学卒業者の就職形態、キャリアパターン、家庭生活、専門職意識などを分析記述したもの。教職はミドルプロフェッショナルであるという規定を実証した。 (共著者：名越清家)
23. 現代社会と社会認識の形成	単著	1974年8月	木原健太郎・小林信郎共編「社会認識の形成」(現代教科教育学体系第3巻)	現代の情報化社会において子供の認知的社会科にどのような変化を生じているか、教育社会学の見地から分析した。
24. 医学部 - 地方医育機関の役割 -	単著	1974年11月	清水義弘編「地域社会と国立大学」東京大学出版	地方国立大学医学部の教育・研究機能をアンケート調査により分析し、かつ医学部卒業生の人材を多変量解析の手法を用いて分類したものである。
25. 大学の組織・運営に関する総合的研究 - 全学レベルの管理運営	単著	1976年4月	広島大学・大学教育研究センター「大学研究ノート」第26号	大学の組織・運営・構造を機能主義の立場から分析した。
26. Roll des Erziehungssystems für die Modernisierung	単著	1976年5月	I.Shimizu.Y.Tamada編「Die Gesellschaft Japans」Westdeutscher Verlag	明治以降の日本の近代化にはたす教育の役割についての教育社会学的分析。
27. 高等教育と価値観・メリットクラシー	単著	1978年2月	天城勲編「高学歴社会のゆくえ」総合研究開発機構	高等教育の趨勢を左右する価値観と21世紀のエリート形成と高等教育についての予測
28. 教育の機会	単著	1978年3月	天野郁男編「テキストブック社会学(3)教育」	教育の機会の「形式的均等化」が「成果の均等化」に結びつかない原因を論じた。
29. 学力・能力・適正と教育	単著	1960年11月	河野重男・新井郁男共編「現代社会と構造と課題」ぎょうせい出版	学力・能力・適正概念の吟味と教育との関連化について論じた。
30. 教育理念の対立と妥協	単著	1979年1月	新堀道也・河野重男共編「教育革新の世界的動向」学研出版	教育革新を主導する教育理念の現代的状況について論じたもので、イデオロギーの衰退を指摘した。
31. 学歴と継続学習	共著	1979年3月	大阪大学人間科学部紀要第5巻	学歴が勤労青少年の学習意欲を規定している実体を論じた。
32. 高等学校教育の発展と高等学校研究の展開	単著	1979年9月	日本教育社会学会編「教育社会学研究」第34集	第二時大戦後の高等学校教育と高等学校研究とのinteractionを記述したもの。この領域の研究の回顧と展望であるとともに研究の社会学的意味にもふれた。
33. 学歴と継続学習 - 生涯教育の視点から	単著	1979年	大阪大学人間科学部紀要第5巻	勤労青年と、各界リーダーの意見調査の分析から、来るべき学習社会の実現に向けての提言を行った。
34. 教育機会のユニバーサル化と定時制高校の社会的役割の変容	共著	1980年4月	大阪大学学生部「カウンセリング研究」第5号	高等教育の普遍化時代における定時制高校の役割の変化を歴史社会学的に分析した。
35. 現代学生論	単著	1980年	「IDE現代の高等教育」211号 民主教育協会	学生の社会的性格の変化を、パーソナリティの機能的モデルをもとに、二つの文学作品を素材として論じた。

36. 高等教育と大学一般教育の接続化	単著	1982年	「I D E 現代の高等教育」228号 民主教育協会	高等学校教育と大学教育との接続化をはかるために、今日必要とされる大学の一般教育側からの対応を大学生の一般教育観を資料に論じた。
37. アーティキュレーション再考	単著	1984年3月	「I D E 現代の高等教育」249号 民主教育協会	高校と大学との関係において用いられる「アーティキュレーション」の概念を、その連続性ばかりでなく、非連続性の観点から高校期と大学期における「発達課題」の中に位置づけることを主張した。
38. 大学放送教育実験番組等を通してみた放送大学	単著	1984年11月	「大学と学生」224号 第一法規出版	生涯学習の理念にのっとった新しい型の高等教育機関としての放送大学の基本的生活を論じた。
39. 教授の視座と学生の視座 - 大学環境調査を資料に -	単著	1985年5月	「I D E 現代の高等教育」261号 民主教育協会	「大学環境調査」をもとに、今日の大学生が大学の「実用性」「学究性」「共同性」の各領域をどのように評価しているのかを検討した。
40. 「46答申」との比較で「高等教育の改革」	単著	1986年5月	「I D E 現代の高等教育」272号 民主教育協会	昭和61年の臨教審の審議概要に示された高等教育改革の構想と比較し、前者の構想の持つ問題点を論じた。
41. 生涯学習と放送大学	単著	1989年8月	「大学と学生」284号 第一法規出版	生涯学習社会の発展の中で、放送大学が果たすべき役割とそのあり方について考察した。
42. 英才教育の今日的課題	単著	1990年	「大阪大学教育社会学教育計画論研究集録」8号 大阪大学人間科学部教育社会学・教育計画論研究室	画一的な平等思考によって日本においては英才教育が発展のために、研究の蓄積を求めらるものである。
43. 「教育上の例外措置」	単著	1991年7月	「文部時報」1375号	第14期中央教育審議会答申にもりこまれた「教育上の例外措置」に関する提言を、英才教育の推進の立場から評価しつつ、不十分点を指摘した。
44. 私の出会った学者たち	単著	1991年8月	「I D E 現代の高等教育」327号 民主教育協会	東京大学在学中に、教養部、教育学部で講義を受けた研究者の思い出を通して、大学における研究者のあり方について記した。
45. 生涯学習社会の谷間を埋める	単著	1991年10年	「文部時報」1378号文部省	生涯学習社会における後期中等教育の役割を、継続学習の機会の均等化という観点から論じた。
46. 生涯学習の立場から	単著	1991年2月	「I D E 現代の高等教育」322号 民主教育協会	生涯学習と高等教育の関連と役割分担の方向とその可能性について論じた。
47. 教育社会学の制度化と新しい危機	単著	1992年	「教育社会学研究」50集 東洋館出版	教育社会学の研究は、その制度化とともに現実とのカイリという危機的状況を迎えている。本論文では、その克服の方途を探り、提言を行った。
48. 中高一貫教育を導入すべきか	単著	1996年11月	文芸春秋社「日本の論点」	中高一貫教育の導入より新しい学制改革の必要を論じたもの。
49. 大学改革のパラダイム	単著	1996年11月	青木宋也編「大学改革を探る」大学基準協会	理念なき今日の大学改革の問題を論じ、改革のパラダイムを提案した。
50. 新しい才能教育を育てよう	単著	1996年	信濃教育界「信濃報告」	第14回中央教育審議会にて提

			第1310号	案された「教育上の例外措置」について、才能教育の観点から論じた。
51. 21世紀の女子教育	単著	2005年9月	「I D E 現代の高等教育」473号 民主教育協会	21世紀の女性のリーダー育成のための女子教育の構想を論じたもの。
52. 教育に求められるもの - 教師の意識改革 -	単著	2005年10月	季刊「栄養教諭」創刊号 全国学校栄養士協議会	21世紀の教師に求められている5つの
その他				
1. デュルケム「道徳教育論」(訳書)	共訳	1964年9月	明治図書	山村健と共訳
2. P. C. セクストン「教育社会学」(訳書)	共訳	1971年6月	至誠堂	石田純と共訳